

分科会で検討すべき事項の対応状況・今後の取組

分科会 I ; パレット循環体制

検討すべき事項	対応状況・今後の取組
<p>1. パレット循環体制構築に向けた現状把握と目標設定</p> <p>○ JA、卸売市場に対し調査を行う手法等の検討</p> <p>※ 官民物流標準化懇談会のパレット標準化推進分科会における分野別パレット化率把握の取組と強調</p> <p>○ 卸売業者のパレット輸送を含めた物流に関する意識調査</p> <p>○ トラック事業者へのアンケート調査</p> <p>○ 青果物流通におけるパレット化率の KPI 設定や測定方法に関する検討（追加）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卸売業者、仲卸、産地（JA）を対象にパレットの導入状況や卸売市場内の物流等に関する青果物流通実態調査を実施。 【資料 5】青果物流通実態調査の結果報告（卸売市場物流の結果概要） ・ 1月に食品流通課職員による大田市場におけるパレット導入の定点観測調査を実施。令和4年度以降も季節ごとに継続調査を行うとともに、他市場でも実施する予定。 【資料 6】パレット導入状況に関する定点観測調査の結果報告 ・ 業種横断的な物流標準化について議論を行っているパレット標準化推進分科会において、23業種に対する業種横断的なパレット実態調査を実施予定。青果物分野は全農、ホクレン、日園連に協力依頼。 ・ 市場開設者に対して場内物流等に関するアンケート調査を実施。 【資料 7】青果物卸売市場における場内物流等アンケート調査（結果概要） ・ 全日本トラック協会にご協力いただき、物流事業者に対して青果物流通に関するアンケート調査を実施。令和4年4月以降実施し、7月頃に取りまとめ予定。 【資料 8】物流事業者に対する青果物流通に関するアンケート調査票 ・ 上記の実態調査を踏まえて、青果物流通におけるパレット化率の KPI の目標設定や測定方法等について、秋頃を目途に検討する。

分科会 I ; パレット循環体制 (つづき)

検討すべき事項	対応状況・今後の取組
2. パレット循環体制導入に向けた実証を行う品目・地域の選定 <ul style="list-style-type: none"> ○ みかん産地へのパレット導入の拡大 ○ りんご産地へのパレット導入 ○ 果樹の複数品目産地へのパレット導入 ○ 現在取組を進めている野菜産地での選果場・品目の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度「農産物・食品の物流標準化委託事業」を活用し、左記の品目及び地域において、実証試験を実施し、実証結果を踏まえて手順書を整理。
3. 転送等を前提としたパレット循環体制ルールの見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガイドライン骨子に記載。
4. IT の活用によるパレット循環に係るコストダウンの検討・検証	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品等流通持続化モデル事業を活用したシステム実証の成果や他の業種の状況などを調査し、引き続き検討する。
5. パレット循環体制の効果と費用負担のあり方 <ul style="list-style-type: none"> ○ パレット導入によるメリットの整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パレット導入を行った品目・地区及び実証を行う品目・地区や卸売市場等のメリットの定量的な整理を行う。 ・ 費用負担に関する他の業種の状況を調査する。

分科会Ⅱ； 場内物流

検討すべき事項	対応状況・今後の取組
1. 荷下ろしの現状把握と課題整理	<ul style="list-style-type: none"> 第1回場内物流分科会において、現状把握と課題整理を行った。
2. 場内動線の現状把握と課題整理 ○ 卸売業者のパレット輸送を含めた物流に関する意識調査（再掲） ○ トラック事業者へのアンケート調査（再掲） 3. 場内のパレット、通い容器の保管の状況把握と課題整理	<ul style="list-style-type: none"> 市場関係者に対して場内物流等に関するアンケート調査を実施。（再掲） 【資料7】青果物卸売市場における場内物流等アンケート調査（結果概要） 全日本トラック協会にご協力いただき、物流事業者に対して青果物流通に関するアンケート調査を実施。令和4年4月以降実施し、7月頃に取りまとめ予定。（再掲） 【資料8】物流事業者に対する青果物流通に関するアンケート調査票
4. トラック予約システムの普及	<ul style="list-style-type: none"> 導入した卸売市場において、その効果や導入コストを整理し、他市場での導入を進める。
5. IT の活用による場内物流合理化の検討・検証	<ul style="list-style-type: none"> 食品等流通持続化モデル事業を活用したシステム実証の成果などを整理し、引き続き検討する。
6. 市場施設整備・市場施設使用のあり方	<ul style="list-style-type: none"> 近年の卸売市場に求められる機能、他の物流施設の機能等を整理し、引き続き検討する。
7. 市場外に設置されるストックポイントとの連携	<ul style="list-style-type: none"> 6と一体的に引き続き検討する。

分科会Ⅲ；コード・情報

検討すべき事項	対応状況・今後の取組
1. 生鮮標準コード及び生鮮標準コード体系の活用状況と課題整理 2. 各プレイヤーの用いているコード 3. 送り状、販売原票等の帳票類の現状把握と課題整理 ※ 送り状や送り状の項目の統一を優先。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回コード・情報分科会において、生鮮標準コード及び生鮮標準コード体系の現状把握と課題整理や各プレイヤーが用いているコード、送り状等の原票類の現状把握と課題整理を行った。 ・ ガイドライン骨子に標準化すべき項目及び内容を記載。

分科会Ⅳ；外装サイズ・表示

検討すべき事項	対応状況・今後の取組
1. 外装サイズ・外装表示の現状把握と課題整理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回外装サイズ・表示分科会において、現状把握と課題整理を行った。
2. 外装サイズ標準化に向けた実証を行う品目・地域の選定 <ul style="list-style-type: none"> ○ みかん産地へのパレット導入の拡大 ○ りんご産地へのパレット導入 ○ 果樹の複数品目産地へのパレット導入 ○ 現在取組を進めている野菜産地での選果場・品目の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度「農産物・食品の物流標準化委託事業」を活用し、左記の品目及び地域において、実証試験を実施し、実証結果を踏まえて手順書を整理。（再掲）
3. 外装サイズ・外装表示の標準化と並行して導入すべきロボット等の費用と採算性の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の物流施設等の状況を整理し、引き続き検討する。
4. 高級品等ではない一般的な商品についての等階級等の見直し検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外装サイズの標準化の取組と並行して、パレット単位で実需者に納品される品目などの出荷規格の簡素化について引き続き検討する。
5. 選果場での対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選果ライン、真空予冷機等の改修方策や財産処分の手続の簡素化等によるパレチゼーションの推進方策を検討する。
6. パレットサイズの標準化を踏まえたトラック車両サイズに関する議論の動向把握	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、情報把握に努める。